

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年3月24日～2014年3月30日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年4月1日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼第27回ジュネーブ会議(25日-26日)

・会議後、共同議長を務めるEU、国連、OSCEの代表者らは、武力不行使に係る共同声明の議論で一定の進展があったと述べた。一方で、ツルネン国連代表は、ガリ地区でのIPRM会合の再開については前進がないと発言。

・グルジア側の主任交渉者ザルカリアニ外務次官によれば、グルジア側は、軍事インフラの建設や行政境界線付近のグルジア管理空域の飛行など、ロシアによる「挑発的な行為」を取り上げた。また、アブハジアおよび南オセチアでロシアが実施している軍事訓練にも言及した。

【アブハジア】

▼アブハジアのロシア連邦編入に係る住民投票の可能性をめぐる議論(25日)

・クリミアの事態を受けて、一部でアブハジアのロシア連邦への編入の可能性の問題が取り上げられていることについて、ブジャニア「アブハジア共和国大統領報道官」は記者に対し、そのような議論はロシアのメディアが言い出したものであるとして、「アブハジアではいかなるレベルでもロシア連邦への編入について議論すらされていない。編入に関する住民投票を行なうことはありえない。住民投票が実施されないのは、結果を恐れる者がいるからではなく、必要性がないためである」と発言。

▼ヌルガリエフ露国家安全保障会議副書記がアブハジアを訪問(24日)

・アネクワブ「アブハジア大統領」と会談し、アブハジアとロシアの法執行機関の協力について協議。

▼アブハジア「安全保障会議」と露連邦安全保障会議の相互理解に係る覚書(24日)

・モスクワにて、アシュバ「アブハジア安全保障会議書記」とパトルシェフ露連邦安全保障会議書記が、両会議の相互理解に係る覚書に署名。

【南オセチア】

▼新たな「国境」通行許可証の発行(20日)

・コルビン「南オセチア国家保安局長」は、南オセチアのメディアに対し、従来の「No.9」と呼ばれる行政境界線の通行許可証に代わって、5月初めに新たな通行許可証を発行すると発言。また、「違法な国境の通過」に対する罰則の強化を準備していると述べた。

2. 外 政

▼アラサニア国防大臣がスペインを訪問(23日-26日)

日)

・エウラテ・スペイン国防大臣と会談し、軍事訓練・教育における二国間協力の見直しなどについて議論。グルジアのNATO加盟、来るNATO首脳会議でのMAPの付与、EU・グルジアの連合協定署名なども取り上げられた。

・「ア」国防大臣は、ベニート・スペイン外務省外交長官とも会談。また、エルカノ王立学院で、地域的な安全保障状況の変化の文脈におけるグルジアのNATO加盟の追求について講演した。

▼ガリバシヴィリ首相がハーグ核セキュリティ・サミットに出席(23日-25日)

・「ガ」首相は演説で、グルジアが核セキュリティを高め、グルジア国内外の核物質の不法取引や核テロを予防する努力を強化してきたと強調。被占領地域における密輸入のリスクに言及した。

・サミットに並行し、「ガ」首相はルッテ・オランダ首相、ファン・ロンパイ欧州評議会議長、グリェボウスカイト・リトアニア大統領、オランド仏大統領、ブルクハルター・スイス大統領、トーニング＝シュミット・デンマーク首相、ソルバーグ・ノルウェー首相と会談。

▼パンジキゼ外務大臣がベニート・スペイン外務省外交長官と会談(24日)

・ハーグ核セキュリティ・サミットに参加していた「パ」外務大臣は「ベ」スペイン外務省外交長官と会談し、二国間関係について議論。「ベ」外交長官はグルジアのEU・NATO加盟に対する支持を表明。両者はウクライナ情勢に関して深刻な憂慮を強調し、ウクライナの主権と領土一体性に対する強い支持を表明した。

▼NATO拡大に関するオバマ米大統領発言(26日)

・ブリュッセルで行われたEU・米首脳会議後の記者会見で、ウクライナ情勢を受け、ウクライナとグルジアがNATOに加盟する可能性が高まったかと質問されたオバマ米大統領は、「ウクライナもグルジアも現在NATO加盟に向けて進んでいない。NATOの拡大に関して差し迫った計画はない」と発言。

・27日、ガリバシヴィリ首相は、「幻想を抱いてはならず、現状を現実的に評価せねばならない」として、オバマ米大統領の発言は適切かつ現実的であったとコメント。

・パンジキゼ外務大臣は、「グルジアがNATO加盟に向かって進んでいることは誰も否定していない。我々はいつか加盟することを信じてこの道を進んでいる」と述べた。

・27日、ブルジャナゼ民主運動・統一グルジア党党首は、オバマ米大統領の発言は自身が長年述べてきた現実であり、前政権も現政権もそれを国民に隠してきたと述べた。ま

た、グルジアの抱える問題の解決にはロシアとの直接の対話が必要であるが、政府は決断力に欠けると批判。

・28日、マルグヴェラシヴィリ大統領は、米大統領の発言は「期待していたものではなかった」としつつ、2014年にグルジアがNATOに加盟するとは誰も期待しておらず、発言は我々の方針を変えるものではないと述べた。

▼アラサニア国防大臣がスロヴァキアを訪問(26日—28日)

・スロヴァキアのラジュチャク外務大臣、グルヴァチ国防大臣と会談。グルヴァチ国防大臣との会談では、両国防省間の協力覚書に署名した。

▼欧州委員会が近隣政策対象諸国の進捗報告書を発表(27日)

- ・グルジアについて、連合協定に関連した多くの改革が進められているのと並行して、大統領・首相の交代、与野党共存、憲法改正などが平和裏に実現したことを評価。
- ・司法の独立の重要性を強調し、「司法は検察に較べより独立している」と指摘。メディアについては、「多様化し状況は改善したが、政治的に二極化している」と記す。
- ・新しい労働法の施行を評価する一方で、その適切な実施にまだ問題があると指摘。健全な競争のあるビジネス環境の整備が政府の優先課題の一つであるとしている。
- ・アブハジア・南オセチア問題に関しては、政権交代後「多くの良い兆候が見られる」と記している。

3. 内 政

▼サーカシヴィリ前大統領に対する検察の出頭命令

- ・22日、検察はサーカシヴィリ前大統領に対し、数々の事件に関する証人として出頭命令を発出。同日、11月以来国外に滞在しているサーカシヴィリ前大統領は、TVを通じて出頭に応じない意思を表明。
- ・23日、米務省は、検察の決定に関し、「法は全ての市民に適用されねばならないが、前大統領に対し同時に複数の事件の捜査を開始することは、とくに司法機関が未だ脆弱であることを考えれば、政治的報復に関する正当な懸念を呼び起こす」との声明を発表。
- ・24日、ハーグで米務省の声明について記者から尋ねられたガリバシヴィリ首相は、「誤った捉えかたをしてはならない。これは手続きを透明に行えとの友好国からの助言である」「(検察の決定が) どうしてヒステリックな反応を呼んでいるのか理解できない。フランスやイタリアでも大統領の尋問は行われた」と答えた。
- ・25日、フューレ拡大・近隣政策担当欧州委員は、「検察の決定を懸念をもって注視している。法は全ての国民に等しく適用されねばならないが、欧州の慣行・標準が守られねばならない」と発言。
- ・26日、3つのNGO(公正な選挙と民主主義のための国際社会、「Transparency International Georgia」、「Civil Development Agency」)は、「当局は政治的な動機に関する

疑いを呼び起こさぬよう最大限の努力をする必要がある」「グルジアのEU・NATOとの統合に否定的な影響を与えないように配慮せねばならない」「検察は選挙前の時期に前大統領の尋問が必要になった理由を説明する必要がある」との共同声明を発表。

・命令は、27日午後1時の出頭を命じていたが、「サ」前大統領は予告していた通り、帰国しなかった。その後、検察は、「国外に滞在している『サ』前大統領に対し、スカイプなどの技術を用いた遠隔地からの尋問についての提案を行った」と発表。

・同27日、キエフに滞在中の「サ」前大統領はTVを通じ、検察の提案に応じないと発言。直前にティモシェンコ・ウクライナ元首相と会談したとして、「グルジア政府はウクライナの例に学ばねばならない」と述べた。

・翌28日、マルグヴェラシヴィリ大統領、「ガ」首相らは「サ」前大統領の姿勢を批判。ウグラヴァ前トビリシ市長は、「サ」前大統領は(検察に対してではなく)「法廷に中継されるのであれば証人として証言する用意がある」との「サ」前大統領のメッセージを発表。

▼ガリバシヴィリ首相が憲法による同性婚の排除に言及(28日)

・EUとの査証自由化行動計画のなかで要求されていた、性的指向を含む差別を禁ずる法案が国会に提出されたことを受け、「ガ」首相は、同法案をめぐる不要な憶測を避けるため、憲法で「家族は男性と女性の結びつきである」と規定することを憲法委員会に提案したと発言。既に民法で結婚は男女によるものと規定されている。

4. 経 済

▼2014年1月～2月の貿易収支(17日—19日)

- ・国家統計局が発表。貿易額1567百万ドル(前年同期比17%増)、輸出額440百万ドル(同23%増)、輸入額1127百万ドル(同15%増)。貿易収支は687百万ドルの入超。
- ・貿易相手国の内訳はCIS諸国35%、EU諸国25%、その他40%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、ロシア、ウクライナ、中国。日本は第9位の輸入相手国(輸入額4072万ドル)。

▼トビリシで国際会議「EUとの経済統合」が開催される(27日)

- ・ガリバシヴィリ首相、パンジキゼ外務大臣、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣らが参加。グルジア・EUの連合協定が主な議題の一つとなり、参加者は連合協定への署名の後にグルジア企業のEU市場参入を促すためにどのような改革が必要であるかを議論した。
- ・会議に並行して、「ク」経済・持続的発展大臣は、会議に出席するためにグルジアを訪れたエヴァルダス・リトアニア経済大臣と会談。両国の経済的な協力および東方パートナーシップ諸国のEUとの統合に係る展望と課題について議論した。